

「復興農学会」事務局会議（第39回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2021年10月29日（水）17時30分～18時25分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、大川 泰一郎（東京農工大学）、安達 俊輔（同）、新田 洋司（福島大学）、横山 正（同）
（敬称略）

議事に先だつて、今回より事務局会議に出席する安達 俊輔 編集副委員長（東京農工大学准教授）よりあいさつがあった。

議事録

1. 学会誌・編集委員会関係について（横山、安達）

(1) 編集委員および編集体制について

横山 特任教授より安達 准教授が編集副委員長として業務を担当していること等が報告された。

(2) 第3号編集状況について

横山 特任教授より、現在、投稿論文原稿2報の査読が終了したこと、さらに、総説、「現場からの報告」などで原稿の投稿を期待していることが報告された。杉野 助教より論文の投稿準備を進めていることが紹介された。また、新田より、福島大学食農学類で実施している授業「食農実践演習」を含む食農実践演習について、浜通り地域での学生等の取組みを「現場からの報告」等で紹介してはどうかとの意見があった。引き続き、編集委員会で業務を進め検討することが確認された。

(3) J-STAGE への登録について

安達 准教授より、本学会誌のJ-STAGE への登録の手続きを進めていることが報告された。なお、論文採択率を報告する必要がある、100%に近いなど極端な高採択率では都合が悪いのではないかと情報があつたが、必ずしもそうではないことが確認されたとの報告があつた。

2. 学会賞等の選考規定について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて、本学会の学会賞等の選考規定（案）について、事務局会議メンバーでメール審議した結果、修正意見等はなかったこと等が報告された。審議の結果、原案のとおり了承され、本日より暫定的に施行することとなった。なお、直近の総会で報告されることが確認された。

3. 日本農学会関係について（新田）【資料】

(1) 日本農学会総会・日本農学賞選考委員会の開催と出席について

新田より、日本農学会総会および日本農学賞選考委員会が下記の日程で開催され、生源寺 会長が出席予定であることが報告された。

日時 2022年2月11日（金・祝）10時00分ごろ～18時00分ごろ

開催方法 未定（対面式の場合は、東京大学農学部3号館4階会議室または弥生講堂）

本学会からの出席者 生源寺 会長

(2) 日本農学賞受賞候補者の推薦について

新田より、学会賞等の選考規定が未整備であったことから審議保留となっていた日本農学賞受賞候補者の推薦について審議された。まず、受賞候補者の推薦は各学会から1名で、1名の候補者を複数の学会で

共同推薦することが可能であることが確認された。

新田より、農村計画学会より広田 純一 岩手大学名誉教授の共同推薦の提案があることが報告された。業績等を確認し、審議の結果、本学会として同名誉教授を推薦することが了承された。

なお、推薦申請書等は、農村計画学会の表彰推薦関係担当理事 服部 俊宏 明治大学農学部専任准教授が中心になって準備する予定であることが報告された。

4. その他

(1) 福島大学「復興知」事業関係のご案内

新田より、福島大学「復興知」事業の開催について、以下の通り紹介された。

・11月29日(月) 16時30分 福島フォーラム

林 薫平 准教授(農林資源経済論)が話題提供。Web 配信。

・12月2日(木) 13時30分 「大熊町分科会」

大阪大学、長崎大学、東京大学、立命館大学、福島大学。シンポジウム開催。福島大学からは大熊町 営農再開ビジョン策定委員会委員長 深山 陽子 准教授が話題提供。Web 配信。

(2) 「国際教育研究拠点」について

溝口 教授、大川 教授より、「国際教育研究拠点」設置等にかかる国等による検討状況や情報について情報交換があった。おもてだった動きはいまはないが、来年度予算に関係することもある年内ぐらいには動きがあることが予想されること、また、復興庁等から情報提供依頼などがある可能性があること、等が紹介された。

(3) 松塚土壌博物館(飯館村)の見学等について

横山 特任教授より、溝口 教授が館長をつとめる松塚土壌博物館の見学方法等について照会があった。溝口 教授より、ふだんは無人であるが見学はできること、ホームページに詳しい情報が掲載されていること等が紹介された。

以上

今後の予定

- ・事務局会議(第40回) 2021年11月24日(水) 17時30分～(1時間程度) Zoom 利用
- ・事務局会議は毎月第4水曜日 17時30分からを予定。